

7-2 サービスレベル契約

サービスレベル契約は、Microsoft Azureが提供するサービスレベルに関する取り決めです。この節では、サービスレベル契約とサービスのライフサイクルについて学習します。

1 Azure サービスレベル契約

私たちが業務で使用するシステムがMicrosoft Azureのリソースとして稼働している場合、データセンターのトラブルで利用できない時間帯があると業務に支障をきたします。そこで、マイクロソフトでは、一定の時間以上Azureのサービス稼働とサービスへの接続を保証することで、安心してAzureを利用できるように取り決めを契約の中に盛り込んでいます。このようなサービス稼働とサービスへの接続に関する取り決めを**サービスレベル契約 (SLA : Service Level Agreement)**と呼びます。

SLAは稼働した時間を割合(パーセンテージ)にして表現します。

たとえば、SLAを99%と表現する場合、1か月全体の時間を720時間とするならば、712.8時間(720×99%)以上の稼働を保証するという意味になります。なお、それぞれのSLAにおけるダウンタイムは(サービスが稼働しなかった時間の割合)、以下のとおりです。

▼ダウンタイム

SLA	月間のダウンタイム
99%	7.2時間
99.9%	43.2分
99.95%	21.6分
99.99%	4.32分

Azureではサービスの種類ごとに異なるSLAを保証しており、Azure App Serviceの場合、99.95%の稼働(1か月当たり719.64時間以上の稼働)を保証します。それぞれのサービスにおけるSLAについては、以下の「サービスレベルアグリーメント」をご覧ください。

参考 サービスレベルアグリーメント

<https://azure.microsoft.com/ja-jp/support/legal/sla/>



▼サービスレベルアグリーメントWebサイト

SLAは月間の単位で計算します。月間の稼働率がSLAで定めた割合を下回る場合、**サービスクレジット**と呼ばれる値引きが適用されます。前述のAzure App Serviceの場合、月間稼働率がSLAで定めた99.95%を下回る場合は10%のサービスクレジット、99%を下回る場合は25%のサービスクレジットが適用されます。

2 SLAに与える影響を与える要素

SLAはAzureリソースをどのように実装するかによってパーセンテージが変わります。SLAに影響を与える要素として次のようなものがあります。

(1) サービス構成

サービス構成とは、個々のAzureのサービスの中で設定可能なオプションのことを指します。第3章でも解説した可用性ゾーンは、Azure仮想マシンのサービス構成として選択可能なもので、可用性ゾーンを利用することで、リージョン内の存在する複数のデータセンターに分散して、Azure仮想マシンを稼働させます。